

文化財石垣保存技術協議会会報

令和4年（2022） 第28号 —令和4年度事業報告—

技能者養成研修・実地研修2

日 時 令和4年12月9日（金）～11日（日）
場 所 名古屋市 名古屋城調査研究センター、KK
Rホテル名古屋

研修生 技能会員、技術・研究会員 10 名、一般会員、
賛助会員 8 名

研修内容

日	講習内容	講 師
12/9 （金）	特別史跡名古屋城跡の 石垣修理	西本 菜由 （名古屋城調査研究センター 学芸員）
	安定した石垣の構築と 伝統技能	西形 達明 （関西地盤環境研究センタ ー）
	石垣修理における「施 工」の実務	和田 行雄（会長） 笠 博義（技術・研究会員）
12/10 （土）	文化財保護制度と石垣 修理の理念	中井 将胤 （文化庁文化財資源活用課）
	歴史の証拠としての石 垣	北野 博司 （東北芸術工科大学教授）
	講演会・パネルディスカッション 「特別史跡名古屋城跡 石垣の価値と魅力」 【講演会】 事例紹介：中井 将胤（文化庁文化財資源活用課） 「全国の石垣修復の現状」 前 説：堀内 亮介（名古屋城調査研究センター学芸員） 「名古屋城石垣の文献調査と展望」 講 演：北垣 聡一郎（文化財石垣保存技術協議会 評議員） 「名古屋城石垣の石垣普請」 【パネルディスカッション—名古屋城の魅力と将来 像を語り合う—】 司 会：宮武 正登 パネリスト：中井 将胤・千田 嘉博・なつ 和田 行雄・鈴木 昌哉	
12/11 （日）	特別史跡名古屋城跡現地見学 村木 誠・西本 菜由 （名古屋城調査研究センター）	

研修生の声

藤倉 純二（技能会員）

今回もこの研修に携わって頂いた関係者の
方々、どうもありがとうございました。毎回感
じるのですが、あれだけの人数をよくまとめ
て下さり、とても驚きとともに感謝いたしま
す。

今回の研修では、実際の例をとり実践的な石
積みへの取り組みが学べて非常に実りのある
研修となりました。

特に感心したのが逆石の積み方です。

禁じ手と言われている積み方で380年もの間
崩れずに鎮座していたことに本当にびっくり
しました。

今後も解体時にそういう石の積み方があれ
ば見てみたいと思いました。

禁じ手と言われる積み方はいろいろと見聞
きしていますが、それでも何百年という長い年
月、崩壊しない理屈なども考えてみたいと思
いました。



実技専門研修3・実地研修3

日 時 令和4年12月16日(金)～18日(日)

場 所 香川県小豆島町

研修生 技能会員2名、技術・研究会員2名

内 容 現地調査、実技実習(鍛冶による道具作り等)・石垣カルテ作成実習



齋木 三男(技能会員)

この度、初めて文石協の技能者養成研修に参加させていただきました。16日の参加者顔あわせからの天狗岩丁場での視察、あまりの石のスケールの大きさと矢穴の数など残された丁場の石工たちの仕事跡に思いを馳せました。当たり前ですが当時の大名の権力の凄まじさ、現場で腕をふるう職人たちの技と人工の多さを感じる時間でした。初めて見る矢穴の大きさ、力強くも本当に苦労がたえなかったろうと感じます。

次の残石記念公園では道具を実際に見ることができ、矢の形状、サイズなどを理解し、石の運搬方法なども説明して頂き、これまた当時の石工たちの工夫を勉強できました。

17～18日にかけては、ノミ焼き形成について、藤田さんにご指導頂き角材からノミを形成するという、初めての私にはややハードルの高いものでしたが、他の先輩の藤本さん、小川さんにもレクチャーしてもらい、なんとか1本焼き入れまで完成。感じたことは、やはり数をこなし、体で覚えなければ習得できない技能、1.5日間では足りなかったです。難しいかもしれませんが、ノミ焼きの流れや用語など、説明書または解説書のようなものがあると(図や写真などがある)より理解が深まると思います。

＜職人は見て覚えるのが定説ですが…＞夜の食事(飲み会)では全国から集まった皆さんとフランクな意見交換と、石工の未来などについていろいろとお話させて頂き、これまた有意義なものとなりました。皆さん熱いです！忘れないうちにノミ焼きを実践したいと思います。

研修に参加した皆さま、小豆島の方々、主催の文石協の関係者のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

後継者育成研修 丸亀

日 時 令和5年1月24日(火)～25日(水)

場 所 香川県丸亀市 丸亀城跡

研修生 技能会員3名

内 容 石材調査・カルテ作成作業



研修生の声

水野 奏志(技能会員)

今回の研修の中で印象的だったこととして様々ありました。

1つ目に石材カルテの作成時に気が付きがありました。石一つの詳細を知るために、様々な情報が必要となり、矢穴の数、向きによって、どういった石から加工していたのか、どういういきさつがあつてこの形の石になったのかなどの情報が得られ、またカルテ作りで得られた情報からどういう積み方をしていたのか、どう荷重がかかって割れたのか、割れ方にとって上の石との接点がどの位置にあつたのかなど知ることができること。その情報を見つけていくことなど、石積みを仕事とする上で、とても重要なことだと感じました。

2つ目に石材調査(不確定石を写真から探し、確定させる作業)をさせてもらい、なかなか経験できないことをさせていただきました。番号の確定されていない石材を見て、崩落した石垣のエリアの写真から石材の顔となる面の判別、また判別した顔から番号確定をさせるための情報(矢穴の位置や数、コケや汚れや陽の当たり方など)を集めつつ、実際の石材と写真を見比べながら、石材の番号を確定させていきました。石積みの仕事をしていても、なかなか経験できることではない上に、石材の特徴を捉えることによって、どのような積み方をするべきなのか、また積んではいけない向きはどの向きになるのかなど、石積みをする上で必要となってくる知識を得られる作業だと感じました。

なかなかタイミングが合わないと思いますが、実際の解体や石積み中の研修、また石工の道具作りなど、実用的な研修を受けられたらと思いました。また研修に参加させていただきたく思っております。

実地研修（第18回全国城跡等石垣整備調査研究会 丸亀大会）

日 時 令和5年1月26日（木）～28日（土）

場 所 丸亀市生涯学習センター（香川県丸亀市）
史跡丸亀城跡（香川県丸亀市）

受講者 技能会員、技術・研究会員5名(参加者59名)

開催趣旨

テーマ 『石垣整備と石垣背面の構造』

主 催 文化庁 丸亀市・丸亀市教育委員会

共 催 文化財石垣保存技術協議会

研究会内容

令和5年1月26日（木）

主催者挨拶	松永 恭二（丸亀市長） 篠田 智志（文化庁文化資源活用課長）
共催者挨拶	和田 行雄（文化財石垣保存技術協議会会長）
趣旨説明	岩井 浩介（文化庁文化資源活用課整備部門）
記念講演1	宮里 学（山梨県埋蔵文化財センター） 「考古学の観点から見た石垣の背面」
記念公園2	山中 稔（香川大学創造工学部教授） 「土木工学の観点からの石垣の背面構造の重要性」
基調報告	東 信男（丸亀市教育委員会文化財保存活用課長） 「丸亀城石垣災害復旧事業について」
事例報告①	眞鍋 一生（丸亀市教育委員会文化財保存活用課） 「丸亀城三の丸坤櫓跡石垣の背面構造」

平成5年1月27日（金）

事例報告②	坂井 清春（唐津市教育委員会） 「唐津城跡石垣の背面構造」
事例報告③	徳永 隆（松江市まちづくり文化財課） 「松江城石垣修理における埋没石垣とその取扱い」
事例報告④	豊島 雪絵（津山市文化課） 「史跡津山城跡石垣の背面構造 一排水と埋没石垣を中心として」
事例報告⑤	松井 一明（静岡市観光交流文化局歴史文化課） 「駿府城天守台石垣の背面構造 一正期と慶長期石垣の事例一」
事例報告⑥	伊藤 雅乃（文化財石垣保存技術協議会） 「石垣構造と修復に際しての一考察」
パネルディスカッション	「石垣の背面構造の評価と取扱い」 コーディネーター： 乗岡 実（丸亀市教育委員会文化財保存活用課） パネリスト： 宮里学・山中稔・眞鍋一生・下高大輔・坂井清春 徳永隆・豊島雪絵・伊藤雅乃
総括	市原 富士夫 （文化庁文化財第二課文化的景観部門主任文化財調査官）
次期開催地挨拶	姫路市教育長 西田 耕太郎
閉会挨拶	末澤 康彦（丸亀市教育委員会教育長）

令和5年1月28日（土）

現地見学	史跡丸亀 現地研修
------	-----------



指導者養成研修

【第5回(松阪)】

期 間 令和4年11月12日(土)

令和4年12月6日(火)

場 所 三重県松阪市 松坂城跡

内 容 記録保存事業調査方法の検討と指導

【第6回(丸亀)】

期 間 令和5年1月28日(土)

場 所 香川県丸亀市 丸亀城跡

内 容 記録保存事業調査方法の検討と指導

【第7回(東京)】

期 間 令和5年3月18日(土)

場 所 東京都 (株)文化財保存計画協会

内 容 記録保存事業実施計画の報告と指導

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費（4月～翌3月）をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します

■新規加入会員紹介（令和5年3月24日役員会決議）

会員区分	氏 名	所 属
技能会員	平河 幸太	松本建設(株)
"	唐澤 友久	斎藤工業(株)
"	関谷 寿	関谷造園
技術・研究会員	松本 祥典	(株)文化財保存計画協会
"	望月 賢	(株)ケイコンサルタント
"	木付 洋平	"
一般会員	植原 正則	姫路市立城郭研究室
"	斎藤 光孝	斎藤工業(株)
"	関 直樹	(株)サンパウ
"	豊田 裕代	

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(令和5年2月28日現在)

技能会員	181名
技術・研究会員	125名
一般会員	47名
賛助会員	19法人
評議員	10名
合 計	382名(法人含む)

発行年月日 令和5(2023)年3月31日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町 68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890